



この用紙費用の一部は「世界の子どもにワクチンを日本委員会 (JCV)」に寄付されています。

## 株主メモ

■証券コード	2321
■上場年月日	2002年9月10日
■上場証券取引所	大阪証券取引所 ニッポン・ニュー・マーケット-「ヘラクレス」
■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	毎年6月開催
■基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
■公告の方法	当社のホームページに掲載する <a href="http://www.softfront.co.jp/">http://www.softfront.co.jp/</a>
■株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
■株主名簿管理人事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
■お問い合わせ先	【郵便物送付先】 〒183-8701 東京都府中市日綱町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 【電話照会先】 ☎ 0120-176-417 【ホームページ】 <a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>

### 【株式に関する住所変更等のお届け及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。  
証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡下さい。

# Softfront Report

## 2010年3月期通期

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

## 2010年3月期決算につきまして

2010年3月期の決算につきまして、ご報告させていただきます。

売上高651百万円、営業損失261百万円、経常損失261百万円、当期純損失291百万円となりました。

当初の業績予想を達成することができず、また前年比で減収減益となり、株主の皆様には大変ご迷惑・ご心配をおかけすることとなりましたことを心よりお詫び申し上げます。

## 中期経営方針について

当社は、2008年3月21日に発表した「中期経営計画（2009年3月期～2011年3月期）」に沿って、経営の基本方針である「当社SIP技術のデファクトスタンダード化」および「ライセンスビジネスの成功」に向けて事業を進めてまいりました。「当社SIP技術のデファクトスタンダード化」につきましては、一定の成果を上げていると考えております。しかしながら、業績面においては3期連続での営業損失を計上している状況であり、「ライセンスビジネスの成功」には至っておりません。この結果を受け、従来の「中期経営計画」を見直し「ライセンスビジネスの成功」に向けた中期経営方針を策定いたしました。中期経営方針では、「収益基盤拡大」と「黒字体質への転換」を課題として捉え、安定した収益を確保できる事業分野の創出・拡大と業績変動に応じた柔軟な費用構造化に取り組んでまいります。

当社をとりまく市場環境は、既存ネットワークから次世代ネットワーク(NGN)への移行が進んでいる状況であり、依然として拡大傾向にあります。一方で、経済状況悪化によるお客様の研究開発や設備投資抑制などの影響を受ける可能性があり予断を許さない状況ではございます。

このような中で、中期経営方針のもと市場環境に柔軟に対応し、当社の強みである技術の優位性を活かしてライセンスビジネスの成功に向けて邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月吉日

代表取締役社長 阪口克彦

## Management Policy ▶ 中期経営方針

ソフトフロントは、

当社のSIP技術をデファクトスタンダードにする

ソフトウェアのライセンスビジネスを成功させる

を経営基本方針としています。

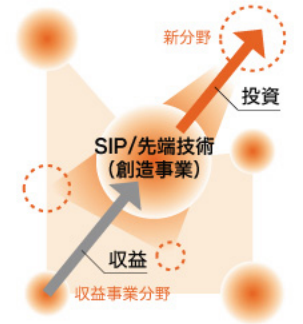
この基本方針のもと、2008年3月21日策定の「中期経営計画」に沿って事業を進めてきました。「SIP技術のデファクトスタンダード化」においては一定の成果を上げてきましたが、2010年3月期まで3期連続で営業損失を計上し、「ライセンスビジネスの成功」までには至っていません。そこで「中期経営計画」を見直し、今後は新たに中期経営方針として、以下の課題に重点を置き、「ライセンスビジネスの成功」に向けて取り組んでいきます。

### 収益基盤拡大

安定した収益を確保できる分野の創出、拡大  
ライセンスビジネスに重点をおいた事業展開

#### <収益基盤強化に向けて>

ソフトフロントの強みである技術の優位性を活かし、NTTグループとの業務資本提携を活用することで、SIPを中心とした先端技術に取り組む創造事業から「収益性の高い分野」、「成長分野」を収益事業分野として育てていきます。そして収益事業分野からの収益を創造事業に投資して、更なる収益事業分野を創出していくことで、収益事業分野を増やし、基盤強化に取り組んでいきます。これまでに「NGN-SDK関連分野」「MFP関連分野」「電力/サーバー系SI関連分野」「Web受託関連分野」が収益事業分野として育ってきています。 ※創造事業を含めた各分野は相互に関連し、独立計上が困難なためセグメント開示は尚早と考えています。



### 黒字体質への転換

業績の変動に対応し、黒字が確保できる柔軟な費用構造への転換

#### <黒字体質への転換に向けて>

当社を取り巻く市場は、長期的に拡大していくことが確実ではありますが、その一方で、新しい市場であるがために拡大規模やスピードを予測することは難しい状況にあります。このような市場環境において、柔軟な費用構造に転換することで着実に収益をあげていきます。

#### ●ソフトウェア利益率の向上

ソフトウェア開発の効率化を図るとともに、一部のソフトウェア資産の評価を見直し、資産のスリム化を図りました。これにより、ソフトウェア償却負担が適正化されるため、利益率が向上します。

#### ●外注加工費の流動化

定期的に委託していた外注作業の内製化を進め、固定的な外注加工費を減少させ、外注加工費の流動化をさらに進めます。

#### ●業績連動給の完全移行

業績連動型賞与制度に2011年3月期で完全移行させ、人件費の一定割合が業績の変動に対応できるようにしていきます。

#### ●固定費削減

間接部門の見直しや、多岐にわたる販売管理費削減の取り組みにより、過去2年間で約90百万円固定費を削減しました。継続的に取り組み、さらなる削減を行っていきます。

4月23日

IPA SIPの脆弱性に関する検証ツールを一般公開  
ユビテック・ネクストジェンと3社で開発に協力

8月3日

“通話録音”と“静止画送信”機能を追加した NGNツールキット、  
「SUPREE Vision Premier Pro」提供開始

6月8日

NTTドコモの携帯電話向けサラウンド音声伝送技術に開発協力

6月9日

NGN対応のCTIソリューション「BIG CTIコネクター」を  
Interop Tokyo 2009に参考出展

6月24日

Android上で双方向VoIP通話に成功

6月25日

ソフトフロントのSIPミドルウェア、パナソニック コミュニケーションズ  
のHD映像コミュニケーションユニットに搭載

12月22日

「HelloMeeting」、NTT東日本の「フレッツ・ソフト配信サービス」  
で販売開始

2009

4 5 6 7 8 9 10 11 12

2010

1 2 3

5月29日

NGN対応SIP-SDK、「SUPREE Vision Premier」提供開始

11月17日

Android対応SIPミドルウェア提供開始

11月18日

NGN対応テレビ会議アプリケーション  
「HelloMeeting」販売開始

7月15日

ソフトフロントと3Di、3D空間向けVoIP (IP電話)  
ソリューションの商用化で業務提携

2月1日

主要複写機/プリンタメーカーとNGNを  
利用したT.38ベースのIP FAX接続仕様  
を策定、IP FAXの実現に向けた製品の  
開発開始

2月22日

アーネットと販売代理店契約を締結  
eラーニングコンテンツ自動作成システム  
「P4Web vivid」の販売を開始

9月28日

「SUPREE Vision Premier」、NTTグループのショールーム  
「NOTE (ノート)」でデモ展示開始

9月29日

NTTドコモにSIP関連ソフトウェアをライセンス提供

FINANCIAL SECTION I ▶ 財務諸表

■ 貸借対照表

(単位:千円)

	第12期 2009年3月期	第13期 2010年3月期
<b>資産の部</b>		
I 流動資産	905,194	669,140
II 固定資産		
有形固定資産	18,896	15,635
無形固定資産	173,027	97,172
投資その他の資産	46,196	46,226
<b>資産合計</b>	<b>1,143,314</b>	<b>828,174</b>

■ 負債の部

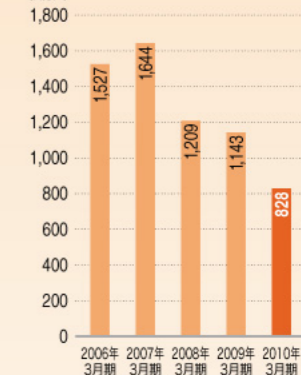
I 流動負債	100,173	76,465
<b>負債合計</b>	<b>100,173</b>	<b>76,465</b>

■ 純資産の部

I 株主資本		
資本金	2,792,479	2,792,479
資本剰余金	2,574,639	2,574,639
利益剰余金	△4,323,977	△4,615,410
<b>純資産合計</b>	<b>1,043,141</b>	<b>751,708</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,143,314</b>	<b>828,174</b>

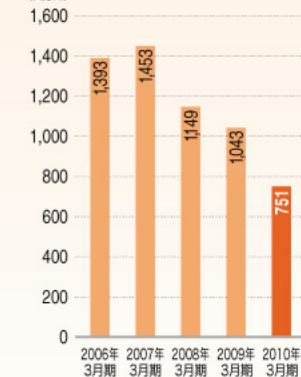
■ 総資産

(百万円)



■ 純資産

(百万円)



## FINANCIAL SECTION 2 ▶ 財務諸表

### ■ 損益計算書

(単位:千円)

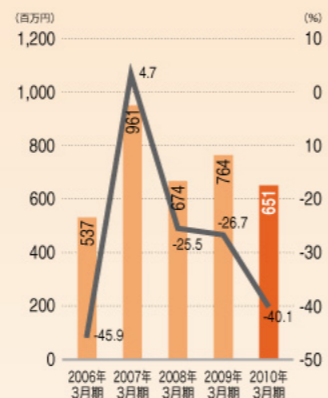
	第12期 2009年3月期	第13期 2010年3月期
<b>I 売上高</b>	<b>764,924</b>	<b>651,849</b>
売上原価	523,982	432,221
<b>II 売上総利益</b>	<b>240,942</b>	<b>219,627</b>
販売費及び一般管理費合計	444,378	481,241
<b>III 営業損益</b>	<b>△203,436</b>	<b>△261,613</b>
営業外収益	1,480	487
営業外費用	2,476	64
<b>IV 経常損益</b>	<b>△204,432</b>	<b>△261,190</b>
特別利益	903	1,647
特別損失	-	29,470
<b>V 税引前当期純損益</b>	<b>△203,529</b>	<b>△289,013</b>
法人税、住民税及び事業税	2,420	2,420
<b>VI 当期純損益</b>	<b>△205,949</b>	<b>△291,433</b>

### ■ キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

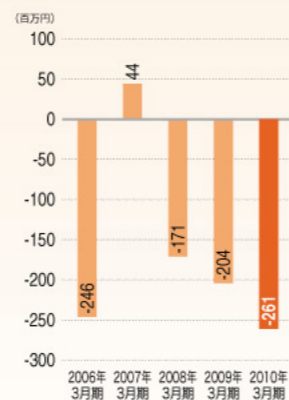
	第12期 2009年3月期	第13期 2010年3月期
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△169,370</b>	<b>△121,543</b>
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△76,305</b>	<b>△67,568</b>
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>97,438</b>	-
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>37</b>	-
<b>V 現金及び現金同等物の増減額 (△:減少)</b>	<b>△148,198</b>	<b>△189,112</b>
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>673,113</b>	<b>524,915</b>
<b>VII 現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>524,915</b>	<b>335,802</b>

### ■ 売上高/経常利益率



■ 売上高 (左軸)  
■ 経常利益率 (右軸)

### ■ 経常損益推移



## INFORMATION

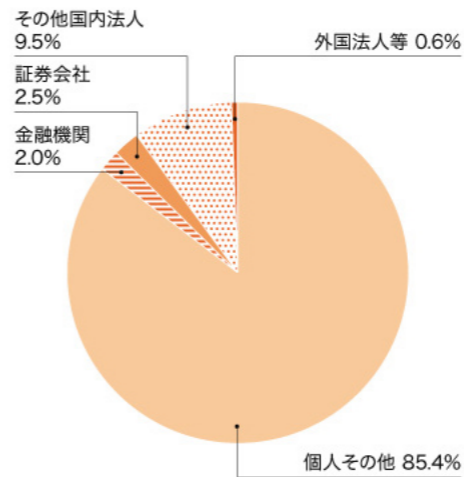
### ■ 株式の状況

発行可能株式総数	324,400株
発行済株式総数	92,002株
株主数	4,595名

### ■ 大株主

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
村田 利文	7,704	8.37
NTTインベストメント・パートナーズファンド投資事業組合	5,730	6.22
長屋 正宏	3,168	3.44
小川 武重	2,035	2.21
大阪証券金融株式会社	1,621	1.76
寶門 行雄	1,000	1.08
株式会社長屋商会	917	0.99
マネックス証券株式会社	724	0.78
廣畑 寛治	668	0.72
新井 謙太郎	635	0.69

### ■ 所有者別状況



### ■ 株価の推移

